「地域との共生」に関する取り組みの詳細は、ホームページに掲載しています。
https://www.westjr.co.jp/company/action/region/

地域との共生

提供する価値

- 地域の皆様とめざす未来を共有し、訪れたいまち、住みたいまちづくり、安全で持続可能な鉄道・交通サービスを実現する
- 鉄道を基軸とした社会インフラ企業グループとして、安全で高品質な鉄道サービスと生活サービスの提供を通じて、お客様の暮らしを支える

推進責任者からのメッセージ

誰もが訪れたくなるまち、住みたくなるまちづくりを通じて安全で豊かな社会づくりに貢献

我が国の各地域を取り巻く今後の社会、経済の環境は、人口減少に伴う市場の縮小や労働力の減少など、厳しいことが想定されるほか、自然災害の激甚化も想定されます。一方で、当社の事業エリアには、訪日のお客様の一層の増加が見込まれることや、北陸新幹線のさらなる延伸、うめきた(大阪)地下駅、なにわ筋線などのプロジェクトをはじめ、開催が決定した2025年大阪・関西万博などの大規模な国際イベントといった成長の機会も多く存在しています。

「JR西日本グループ中期経営計画2022」の1年目であった2018年度は、地域の皆様と共に瀬戸内エリアを一大周遊エリアにすることを目指す「せとうちパレットプロジェクト」といった地域価値向上の取り組み、新線や新駅開業といった鉄道ネットワーク拡大の機会を活かした線区価値向上の取り組みを着実に進めました。また、大阪北部地震、西日本豪雨(平成30年7月豪雨)、大型台風直撃といった相次ぐ自然災害によりグループ全体が多大な影響を受けましたが、被災地域においても、自治体など地域の皆様と連携した復旧、復興の取り組みを進めてきました。

これからも、JR西日本グループは、鉄道を基軸に社会インフラを担う企業グループとして、地域の皆様と連携し、グループ一体となって、誰もが訪れたくなるまち、誰もが住みたくなる沿線をつくるさまざまな取り組みを進めていきます。それらの取り組みを通じて、地域の社会、経済の発展に貢献し、「人々が出会い、笑顔が生まれる、安全で豊かな社会」づくりを実現していきます。

取締役兼常務執行役員
総合企画本部長
杉岡 篤

2018年度の取り組み	● 瀬戸内を国内外から多くのお客様が繰り返し訪れる一大周遊エリアにすることを目指す、「せとうちパレットプロジェクト」をスタート ● 新線(おおさか東線北区間新大阪～放出間)や新駅(嵯峨野線梅小路京都西駅)の開業といった鉄道ネットワーク拡大の機会を活かした線区価値向上の取り組み ● 西日本豪雨(平成30年7月豪雨)など自然災害の被災線区における自治体など地域の皆様と連携した復旧、復興の取り組み
今後の課題	● 新幹線を基軸とした広域鉄道ネットワークの磨き上げ ● 訪日のお客様にとって魅力ある旅先としての西日本エリアの演出 ● 近畿エリアでの線区価値向上の取り組みを通じた関西都市圏ブランドの確立 ● 西日本各エリアでの広域誘客ゾーンの演出、中核都市を中心とした便利で賑わいのあるまちづくり

地域と一体となって大地震、津波に備える

南海トラフ地震へ備えた地域の率先避難者の育成

きのくに線は長距離にわたり海岸沿いを走行しており、地震が発生した場合には、数分で津波が到達すると想定されていることから、全乗務員による津波ハザードマップの携帯、線路沿いの電柱への津波避難標(避難する方向を示す標識)の設置、実車を使用した社外の皆様との合同避難訓練などの津波対策を実施してきました。

これらに加え、津波が発生した時に列車から避難する方法を楽しみながら学習することで、地域の率先避難者を増やしていくことを目的に、鉄道防災教育と地域学習を組み合わせた「鉄學※」を和歌山大学西川一弘准教授のご指導の下で企画し、実施するなど、地域を挙げた自然災害への感度の向上に寄与しています。

社外からのご意見

JR西日本和歌山支社では、東日本大震災前から、社員やその家族、自治会などと連携した津波避難訓練を実施されていました。きのくに線のローカル列車の主たる乗客は高校生です。私は、この高校生が訓練に参加することで、率先避難者の育成ができるのではないかと提案し、実践型訓練の企画に携わらせていただきました。訓練を実施していく中で、①実施にかかるコストと労力が大きい、②意識が高い人の参加にとどまっている、③津波被害が予想される危険な地域としての風評被害への懸念から、地域として正面から取り組みづらい、という3つの課題があると感じました。これらの解決に資する取り組みの一つとして、鉄道防災教育・地域学習列車「鉄學」の開発に至りました。旅行ツアー商品としての実施や、高校の防災教育など、これまで7回の企画に継続して携わることができ、ありがたいと思っています。この取り組みが途切れないよう、人とのつながりを大切に取り組みたいです。

2019年2月に本学とJR西日本和歌山支社が連携協定を結び、防災、観光、地域人材の育成などさまざまな分野で、地域の人と人がつながっていくことを共に目指します。私もその役割の一端を担いたいと思います。

和歌山大学 准教授
西川 一弘 様

地域の皆様と共に、災害に備えた地域づくりに取り組んでいきます

「鉄學」の津波避難訓練で乗務しました。列車からの避難場面では、お客様として参加いただいた地域の皆様に対して、大きな声で呼び掛け、避難を促しました。土地勘のある方に率先して先頭を走っていただいたり、足元が不安定で走りづらい線路横でお客様同士で声掛けしていただくなどのご協力があって、避難を安全かつ迅速に行うことができました。実際の場面でもこのようにお客様のご協力があれば、より迅速な避難が可能になると思います。

私が普段乗務している区間の中には、地震発生から最短11分で津波が到達するとされているエリアがあります。私たち乗務員の知識・技能の向上をさらに図るとともに、地域の皆様には訓練に参加していただくことを通じて、いざという時に備えができている地域を共に作っていきたいと思います。

和歌山支社 和歌山電車区 運転士
青木 沙衣

※ 鉄學:沿線の地域資源の見学とともに、津波発生時の列車からの避難方法を体験してもらうなど、鉄道防災も学べる仕組みとしたもの

地域ビジネスの展開

地域の新たな産業振興、雇用創出　～陸上養殖事業～

当社グループは、地域において新たな産業を振興して雇用を創出し、活性化に貢献することを目指しています。この一環として、2017年6月から陸上養殖事業に取り組んできました。陸上養殖は適正な管理下で安全・安心かつ安定した品質の水産物を育てることが可能であり、また天候・自然災害の影響や乱獲により天然資源が減少する中、未来に向けた持続的な生産に資する手法です。現在は、鳥取県の「お嬢サバ」をはじめとした水産物を展開しています。

陸上養殖自体の普及は道半ばで、育てられた水産物の認知度も低いため、当社の基準に適う陸上養殖の水産物について、「PROFISH（プロフィッシュ） プレミアムオーガニックフィッシュ」という認証ブランドを定め、生産管理方法の高度化・標準化を図っています。これによる水産物を広く認知・普及させ、業界のさらなる拡大と地域の産業振興、雇用創出に貢献していきます。

鳥取生まれの箱入り娘「お嬢サバ」

自社事業の枠を超え、産業や雇用の活性化も自分たちの課題と考えています

創造本部 サブリーダー **石川 裕章**

「地域活性化」を考えた時、大きなテーマとなったのは農業をはじめとした一次産業でした。これまで不可能とされてきた「サバの生食」に鳥取県と共に挑戦し、その後も同じ鳥取県でヒラメ、富山県でサクラマス、広島県でカキ・クルマエビ、山口県でトラフグを地域の新たな特産品として開発しようと取り組んできました。

「地域のために何かしてあげよう」というスタンスでは何事も成し得ません。地域の皆様と顔を合わせ、声を聞き、自分たちにできることを考え、地域の皆様と共に取り組むよう心掛けています。新たな事業の立ち上げという当社の一つの取り組みにとどめず、地元の産業振興や雇用促進といったものを自分たちの課題として考えることが重要です。拡大してきた各地の陸上養殖による水産物のブランディングを開始するなど新たな局面を迎えているこの事業を、駅ビルや不動産事業に負けないぐらいの大きな事業にしたいと考えています。

魅力ある都市空間づくり

自治体・医療機関と取り組むまちづくり

JR京都線岸辺駅前のエリアは、吹田市と摂津市により、国立循環器病研究センターを中核に、北大阪健康医療都市「健都（けんと）」において「健康・医療のまちづくり」が進められています。まちづくりと連動した事業展開として、当社グループは「VIERRA岸辺健都」を開業しました。「VIERRA岸辺健都」の開発では、「健都」が目指す「健康・医療のまちづくり」に即した「健康増進機能」と、地域の方々のための「生活利便機能」をコンセプトに、両機能に資する店舗の開発に重点を置きました。

VIERRA岸辺健都

安全で持続可能な鉄道・交通サービスの実現

移動ニーズの多様化や少子高齢化、激甚化する自然災害など、公共交通を取り巻く環境は日々変化しており、当社エリアも例外ではありません。

安全で持続可能な鉄道・交通サービスの実現に向け、地域が描くまちづくりの将来像を踏まえ、沿線地域の活性化に共に取り組んでいます。

和歌山線では、ＪＡ紀の里様と共に、沿線名産のフルーツを堪能できるツアー“フード＆トレイン”を開催するなど、西日本エリア各地で、地域の特色を活かした取り組みを実施しています。

当社の鉄道ネットワークを地域の魅力の発信に積極的に活かしながら、安全で持続可能な鉄道・交通サービスの実現につなげていきます。

「フード＆トレイン」車内

鉄道資産の活用をテーマにしたまちづくり

島根県邑南町には旧JR三江線の旧宇都井駅があります。旧宇都井駅は地上からホームまでの高さが約20mある「天空の駅」として知られ、地域のシンボルとして愛されています。2019年6月に旧宇都井駅をはじめ町内の主な鉄道資産がJR西日本から邑南町へ受け継がれました。今後は、邑南町が描く鉄道公園構想の実現に向け、技術的支援や観光面での連携を図っていきます。

社外からのご意見

島根県 邑南町長
石橋 良治 様

旧JR三江線の跡地を「地域資源」と位置付けて、町の起爆剤として活用できないかと考え、鉄道資産の取得について検討を重ねてきました。中でも「天空の駅」と呼ばれる旧宇都井駅はファンも多く、観光資源としての活用も可能と考えました。

2018年度はJR西日本の協力を得て、駅舎や線路を借り受け、地元のNPO法人が社会実験を行いました。小さなトロッコ型車両の乗車体験、116段の階段を活かしたそうめん流し、10年前から実施しているイルミネーションイベント「INAKAイルミ」などに多くの来場者を迎えることができました。この結果を受け、2019年6月に旧宇都井・口羽両駅や周辺の線路敷を取得しました。

町では、取得した資産を活かし「鉄道公園」を構想しています。「A級グルメ」や神楽などの資源と併せ、多くの観光客を迎えられるよう、JR西日本、住民、行政が手を携え、全国の鉄道ファンなど多くの方々に参画いただきながら、全域の振興につながるよう取り組んでいきます。

旧宇都井駅でのトロッコ運行